

下町訪ね歩き

暑い時期には地域にある博物館や美術館がおすすめです。冷房はきいてますし、公立のものではバリアフリーもすすんで安心してお出かけになれます。

今回は『葛飾区郷土と天文の博物館』です。館の紹介の前に、ちょっとひとこと。みなさんは葛飾や葛西と聞くとどのあたりを思い浮かべますか。今の江戸川の流れている4都県にまたがる広い地域が「葛飾」、その江戸川(太日川)の西側の地方が「葛西」なのです。平安時代には葛西庄というよび名が見られます。

この博物館ではこの「葛飾」と「葛西」と「葛飾区」のあゆみがわかりやすく展示・説明されています。このニュースの東京東部の地域は江戸時代には農業の先進地でしたが、それを支えていたのが「葛西船」(何でしょうね?)。展示品が車いすでの目の高さにあるのがうれしいです。右の写真は『かつしかのくらし』というコーナ



の一場面です。昭和の子どもである私たちには油のしみこんだ地面までが再現されていてなんとも懐かしい限りです。右の家の中には小さな事務所とお茶の間、誰か顔見知りか座っていそうな気がしてきます。3階には最新鋭の機器を備えたプラネタリウムがあります。



博物館は大人100円です。(葛飾区白鳥3-25-1)

東部地区には、江戸東京博物館(墨田区横網1-4-1)・足立区立郷土博物館(足立区大谷田5-20-1)・深川江戸資料館(江東区白河1-3-28)・すみだ郷土文化資料館(墨田区向島2-3-5)などがあり、それぞれ特色を生かしたすてきな施設です。

(何でしょうね?の答え:江戸市中からおおいを運ぶ船。貴重な肥料だったのです。)